

こんなことあったよ！レポート

平成20年7月10日(水)～まち灯り準備スタート！編

能代バイパス黒松友の会&すみれ会



【下書き作業】和紙に鉛筆で文字を書写



【和紙を貼り付け】曲がらない様に慎重に慎重に



【食紅で着色】文字周りがムズかし〜い



【着色その2】色々な言葉を書き込みます。横面には「交通安全」等も。



【スギ灯り台の加工】ロウソクがグラ付かない様に細工を施しました。



【ピース！】夏休みの思い出になった？楽しさが伝わる、満面の笑み



【点火試験】火が安全に保たれるか実験（OK！）。スギ灯り台とロウソクが固定され、斜めにしても引火しないのを確認。夜はほのかな灯りでキレイです。



能代バイパス黒松友の会は、上町すみれ会や賛同して頂いた昇平岱自治会・能代風保存会と共に、一般国道7号（能代市内、港入口交差点～豊祥岱交差点間）や能代市上町に設置する「田楽」及び「べらぼう凧」を、会員のボランティアで製作しました。

7月10日に黒松ハウスで始まった田楽づくり。22日から旧湊城第二小学校へ作業の場を移し、26日～29日の4日間は夏休みに入った小中学生・幼稚園児の体験学習にも一役買い、合同で街を彩る田楽を製作しました。和紙の貼り付けから色塗りまで、説明を受けながら皆さん時間いっぱいまで頑張ってくれました。子供たちは、貼りつけ・色塗りと大作業（スギ灯り台への釘打ち込み）を行い、多少失敗してもご愛敬、楽しみながら総数110個の田楽を製作しました。

また、べらぼう凧は「能代風保存会」の全面的な協力を頂き、伝統的な「男べらぼう」・「女べらぼう」を製作して頂きました。さすが本職、下書きの段階から唸らせられる出来映えですが、着色された完成品はその大きさもあり見事な物です。

さらに、スギ間伐材の不要部分を再利用したスギ灯り台と、お寺等で使用済の廃棄ロウソクを再利用・廃食油から抽出したリサイクル燃料の使用など、リサイクルの積極的な取組も行いました。

6日・7日の夜7時～夜10時まで、エコの光が“能代の七夕の夜”を包み込みます。みなさん、役七夕の夜は「能代の勇壮な灯籠」と共に「エコの光」を楽しみませんか？

文・写真：平野剛一

【女べらぼう】【男べらぼう】大きさは縦6尺（182cm）の横4.5尺（135cm）。外に飾る為、若干小さめに作りましたが、近くで見ると迫力があります



給食センターや個人宅からいただいた廃食油を鍋で温め、凝固剤を入れます。



お玉でカップに注ぎ、灯心となる木綿糸をさして、倒れないように割り箸で固定して冷まします。



廃食油ろうそくが固まるまでの間に、香りのろうそくを作りました。高校生のお兄さんたちの説明にみな興味津々ですが、注目されてお兄さんたちは少し緊張気味です。



お寺からいただいたろうそくを溶かして、その中にオイルを入れて香りをつけ、溶かしたクレヨンを入れて色をつけます。ろうそくが固まりかけてきたら、灯心をまっすぐさします。



まち灯り・夏用にみんなで作った廃食油ろうそく（左）と記念に持ち帰ってもらった香りのろうそく（右）。

工ころうそく作りにかけては、ベテランの域に達し？つつあるすみれ会の面々！「のしろまち灯り・夏」に向けて今回も7月23日と24日の2日間、能代市子ども館で幼稚園児・小学生・中学生の皆さんとろうそく作りをスタートしました。このたびは、木高研でインターンシップ中の能代高校のお兄さんたちにも参加していただき、とてもにぎやかな作業となりました。

また、木高研の渋谷先生の御指導を受けて、これまでの廃食油から作るろうそくのほかに、黒松オイル（黒松友の会の剪定作業で出た松葉や枝から抽出したもの）とオレンジの香りのするろうそくを作りました。黒松ろうそくは緑色、オレンジは黄色にクレヨンを溶かして着色しました。参加者一同、どれも初めてのことなのでとても喜んでくれました。この珍しいろうそくをお土産として持ち帰ってもらい、「まち灯り」の日に再開を約束して解散しました。

各団体に配られるろうそく作りは、7月31日すみれ会の活動拠点・ほっとステーションで約600個を一気に仕上げました。

また、香りつきろうそくを木高研の渋谷・渡辺先生と約150個作りました。黒松＝緑、オレンジ＝黄色、楠木＝白の3種類です。これを2個セットにし、袋に入れてリボンを結んでまち灯り当日に販売しました。売れ行きは今ひとつという感じでしたが、これからのアイディア次第というところでしょうか???

文：相澤レイ子
写真：渡辺 千明



北羽新報社でインターンシップ中の高校生からの取材もありました。